allcinema

バタフィールド８（1960）

BUTTERFIELD 8

メディア 映画
ジャンル ドラマ　ロマンス
製作国　アメリカ
色彩　Color
時間　109分
初公開日 1960/12/22
公開情報 ＭＧＭ

【解説】

リズが初のオスカーを取ったメロドラマ。娼婦の汚れ役を演じたと言っても、過去の浮気女（「雨の朝巴里に死す」）や狂女（「愛情の花咲く樹」）あたりから既に賞狙いの複雑な役はこなしてきている彼女だ。そのねぎらいの意味もあっての受賞－－と言われた。グロリアはモデルの正業は名ばかりで、バタフィールド８の電話番号で呼び出されるコールガール。ＮＹのアパートに母と二人暮らしだ。たとえ娼婦であっても、心を許す男はいる。それは富豪の娘を妻にし、愛情のない結婚生活を送るリゲット（ハーヴェイ）と、何事も相談に乗ってくれる幼なじみの作曲家スティーブ（フィッシャー）だった。リゲットは妻との生活に疲れ酒に溺れる。そんな彼にのめり込むグロリアだが……。そして、悲劇はふいに訪れた……。リズはこの作品が縁で妻子ある歌手のフィッシャーとデキてしまい、後に結婚。夫を奪われた妻はデビー・レイノルズ。パパを取られちゃった娘はキャリー・フィッシャー。が、その結婚も数年と保たなかった。そして、彼女は「クレオパトラ」となり、共演のバートンと結ばれ、「いそしぎ」「バージニア・ウルフなんかこわくない」（二度目のオスカーに輝く）等、夫婦共演作で演技者として真に開眼した。古人曰く、色は芸の肥やし……。

【クレジット】

監督	ダニエル・マン	Daniel Mann	
製作	パンドロ・Ｓ・バーマン	Pandro S. Berman	
原作	ジョン・オハラ	John O'Hara	
脚本	ジョン・マイケル・ヘイズ	John Michael Hayes	
	チャールズ・シュニー	Charles Schnee	
撮影	ジョセフ・ルッテンバーグ	Joseph Ruttenberg	
	チャールズ・ハートン	Charles Harten	
編集	ラルフ・Ｅ・ウィンタース	Ralph E. Winters	
音楽	ブロニスラウ・ケイパー	Bronislau Kaper	
出演	エリザベス・テイラー	Elizabeth Taylor	グロリア・ワンドラス
	ローレンス・ハーヴェイ	Laurence Harvey	ウェストン・アムスベリー・リゲット
	エディ・フィッシャー	Eddie Fisher	スティーヴ・カーペンター
	ダイナ・メリル	Dina Merrill	エミリー・リゲット
	ミルドレッド・ダンノック	Mildred Dunnock	ワンドラス夫人
	ベティ・フィールド	Betty Field	フランシス・サーバー夫人
	スーザン・オリヴァー	Susan Oliver	ノーマ
	ジェフリー・リン	Jeffrey Lynn	ビンガム・スミス
	ケイ・メドフォード	Kay Medford	ハッピー
	ジョージ・ヴォスコヴェック	George Voskovec	ドクター・トレッドマン

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.